

4月23日現在の小麦「ハナチカラ」の出穂期および赤かび病防除適期について

高温の影響で、小麦の生育が早まっています。10月下旬に播種した小麦「ハナチカラ」は、4月22日に出穂始めとなりました。

支援センターでは小麦の出穂期、赤かび病の防除適期を以下のように予測していますので、参考にしてください。今後の気温も高いと予想されており、生育が予測より早まることも考えられるので、今後の気象状況と生育状況にはご注意ください。

表1 4月24日以降、平年の平均気温で推移した場合の出穂期および赤かび病防除適期予測

播種時期	幼穂長 (mm)	出穂期までに必要な積算温度	調査地域・標高
10月20日播種	115 (mm)	48°C	(伊那市美篤・標高720m)
10月30日播種	88 (mm)	71°C	(伊那市東春近・標高670m)

播種時期 地域	出穂期	開花期・赤かび病防除1回目 (出穂期から7~10日後)	開花期・赤かび病防除2回目 (1回目防除の10~14日後)
10月20日播種 伊那市美篤 標高720m	4月27日	5月4日 ~ 5月7日	5月14日 ~ 5月21日
10月30日播種 伊那市東春近 標高670m	4月29日	5月6日 ~ 5月9日	5月16日 ~ 5月23日

注1) 令和7年度 普及に移す農業技術(第2回)を用いて推定

注2) 平均気温: 気象庁 過去のアメダスデータ 伊那市における平年の平均気温を使用

表2 4月24日以降、平年の平均気温+3.22°C^{注1)}で推移した場合の出穂期および赤かび病防除適期予測

播種時期	幼穂長 (mm)	出穂期までに必要な積算温度	調査地域・標高
10月20日播種	115 (mm)	48°C	(伊那市美篤・標高720m)
10月30日播種	88 (mm)	71°C	(伊那市東春近・標高670m)

播種時期 地域	出穂期	開花期・赤かび病防除1回目 (出穂期から7~10日後)	開花期・赤かび病防除2回目 (1回目防除の10~14日後)
10月20日播種 伊那市美篤 標高720m	4月26日	5月3日 ~ 5月6日	5月13日 ~ 5月20日
10月30日播種 伊那市東春近 標高670m	4月28日	5月5日 ~ 5月8日	5月15日 ~ 5月22日

注1) 伊那市における4月14日~4月23日までに実測した気温と平年気温の差の平均値を使用

注2) 令和7年度 普及に移す農業技術(第2回)を用いて推定

注3) 平均気温: 気象庁 過去のアメダスデータ 伊那市における平年の平均気温を使用

コムギ赤かび病の防除を徹底してください！

上伊那農業農村支援センター
J A 上伊那

赤かび病菌は、小麦、大麦、トウモロコシなど多くのイネ科の穀物に感染します。麦類では主に5月中下旬の開花期に感染し、屑粒が多発して収量が減少するほか、かび毒の一種、デオキシニバレノール（DON）等を生成することが知られています。

このため、検査規格の中に赤かび粒の混入許容値が定められており、本病が発生すると、販売や流通の大きな障害となります。

【発生しやすい条件など】

- ★開花始期から10日間の降雨日数が多いと発病穂が多くなり、この期間の日最低気温が高いと発病程度が高くなる傾向にあります。近年（令和3年以降）は、赤かび病が発生しやすい気象条件となっており、発生が多くなっている傾向にあります。

開花期以降の降雨・気温により感染の危険性が大きくなります

- ★開花始期11日後から20日間の降水量が多いと病勢が進み、DON濃度が高くなる傾向にあります。
- ★越冬後の過剰な窒素追肥は遅発分げつが発生して開花期間が長引くため、感染が長期化します。開花期の適正範囲の追肥は、赤かび病の発生に影響しないといわれています。
- ★倒伏した発病穂では、DON濃度が高くなる傾向があります。

【薬剤防除のポイント】

- ★赤かび病が最も感染しやすい時期は開花期で、ほ場をよく観察し、開花始期の予防防除を徹底します。
＜防除時期：小麦の開花始期（出穂期後7～10日頃）＞
- ★「ハナチカラ」は赤かび病の抵抗性が低いので追加防除を実施します。
＜追加防除：1回目防除の10～14日後＞

注）使用農薬についてはJA、農業農村支援センターにお問い合わせください。また、農薬を使用する際は、農薬使用基準を確認の上、適正に使用してください。



赤丸内（褐変している部位）が赤かび病感染部位

【収穫・調製時の注意事項】

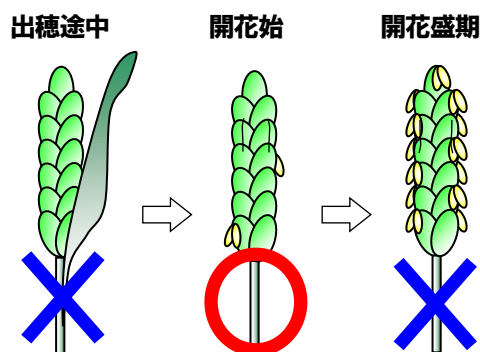
- ★黄熟期の前からほ場を見回り、赤かび病の発生の有無を確認してください。
- ★赤かび病が発生したほ場では、刈分けを行い、健全な麦に混入させないようにしてください。
- ★収穫後、高水分のまま放置すると貯蔵中に赤かび病菌が増殖します。収穫したら速やかに乾燥作業に移行してください。

【参考資料】

麦類のデオキシニバレノール、ニバレノール汚染の予防及び低減のための指針
農林水産省 令和5年3月14日公表

https://www.maff.go.jp/j/syouan/seisaku/risk_analysis/priority/kabidoku/mugi_kabi_sisin.html

○1回目の薬剤散布時期



感染前の穂に薬剤を十分に付着させ保護することが重要